

## 自動化技術が経済成長と所得分配に与える影響

### — 2階級モデルによる分析 —

萩原健史<sup>\*</sup>，ファム・トゥ・ジャン・ホン(Pham Thu Giang Huong)<sup>\*\*</sup>，  
深谷紀希<sup>\*\*\*</sup>

#### 要旨

本研究は、自動化技術の進展が経済成長と所得分配に与える影響を分析する。労働者と資本家という2種類の階級が存在し、労働、資本、自動化資本という3種類の生産要素を投入して最終財を生産する経済を考える。自動化資本とは人工知能やロボットに代表される資本であり、労働と完全代替である。労働者は労働力と資本を保有し、資本家は資本と自動化資本を保有する。一定の条件下では、自動化資本は蓄積され続け、外生的技術進歩がなくとも1人当たり産出は持続的に成長する。このとき、労働者1人当たり資産は正の一定値に収束するか上昇し続け、資本家1人当たり資産は上昇し続ける。資本家の蓄積速度は労働者のそれを上回り、階級間の所得格差は拡大していき、総資産に占める労働者の資産割合と国民所得に占める労働者の所得割合はゼロに漸近する一方、資本家の資産割合と所得割合は1に漸近する。したがって、経済成長の恩恵を享受するのは資本家である。

---

\* 京都大学経済学部3回生

\*\* 京都大学経済学部3回生

\*\*\* 京都大学経済学部2回生